



一般社団法人日本フードサービス協会

JFニュースレター

2015. 10. 15

ノロウイルスが変異 今年は 심각한警戒をお願いします

ノロウイルスを原因とする感染性胃腸炎は冬場に多く発生し、大規模な食中毒になりやすいことから、食品事業者は、施設の衛生管理や従業員の健康管理などによりその予防に努めていますが、ノロウイルスは、保菌者による人から人への感染か、食品を介しての中毒によるものかの特定が難しく、特に外食事業者はその対策に苦慮しています。

特に本年は、これまで我が国で主流を占めてきた「GⅡ-4 型」に替わり、アジア圏で流行している「GⅡ-17 型」が主流になっています。

今年流行のノロウイルス「GⅡ-17 型」は、

- ①遺伝子が変異しており、人が免疫を持たないウイルスになっている
- ②従業員などのノロ検査用に使用されている簡易キットでは、「GⅡ-17 型」は、十分なウイルスの量があっても陰性となりやすいという報告がある

ことから、本年は、平成 18 年から 19 年の大流行に並ぶおそれがあります。

会員各社におかれては、ノロウイルス中毒に 심각한警戒をお願いします。

○意見交換会「ノロウイルス対策の現状と課題」の開催

公益財団法人食の安全・安心財団では、今年流行が見込まれるノロウイルスの特徴、現場におけるノロウイルス対策の在り方、感染が疑われる事態が発生した場合の対処方法等について、専門家の解説を踏まえて関係者と意見を交換し情報を共有するため、10月28日(水)に意見交換会を開催します。

開催案内と厚生労働省情報は「財団ホームページ」から確認出来ます

<http://anan-zaidan.or.jp/>

※本ニュースレターは、情報共有を図るため、JF 会員にお送りしています。

この件については、JF と食の安全・安心財団が連携して情報の収集に努めています。

お問い合わせは JF 事務局：関川・田村 (03-5403-1060)、財団事務局：中村 (03-5403-1064) にお問い合わせいたします。